



5つの安芸高田 あったかビジョン

やっぱり、

あったかいまち



ふじもと 藤本えつし

藤本えつし 基本姿勢

まとめる

私たち市民を置きざりにして混乱する市政を、「まとめる力」で市民が主人公の市政に変えます。

このまち生まれ このまち育ち 51歳

あったか

ギスギスした「つめたいまち」に住みたいとは思いません。ぬくもりのある「あったかいまち」をつくりま

やりぬく

不安をおおる「改革」ではまちがダメになります。「ツケを次世代に回さない」財政改革をやりぬき、「不安」を「納得と安心」に変えます。



詳しくは fujimoto-etsushi.com

藤本えつし公式ウェブサイト

藤本悦志さんってこんな人

1972年(昭47)の夏。広島県北を襲った豪雨は大きな被害をもたらす。その、大水害の真ただ中、産声を上げたのが藤本悦志だった。

地域は甚大な被害をうける。だが人々はへこたれない。復興と自立をめざして「振興会」を設立し、「まちづくり」へと動き出す。そのリーダーの一人が祖父だった。おじいちゃん子だった藤本。祖父への憧れが年長者への敬意を育くむ。

「まちづくり」を身近に感じて藤本は成長する。中学高校時代はバレーボールに熱中し、新庄高校では生徒会長としても活躍する。このとき身につけた「まとめる力」は後の人生の源泉となっていく。

大学では地方行政学を学び、培ったものを活かすため高宮町役場に勤める。その後、郵便局に勤務しながら、一貫して住民主体の地域づくりに取り組み、全国的にも大きく注目される「まちづくり」となる。“ふるさとづくり”はさらに磨きがかかり現在も進行中だ。

藤本が地域から頼まれて請け負ってきた水田は、10ヘクタールにもなった。「えっちゃん」と親しまれ、笑い声の真ん中で飛び回る藤本の姿が今日もある。



〈藤本悦志プロフィール〉

安芸高田市高宮町生まれの51歳。
高宮町立川根小・中学校、広島新庄高校に学ぶ。
桃山学院大学を卒業し高宮町役場に勤務する。
その後、郵便局に勤めながら、地域振興会などで
“まちづくり”に取りくむ。

- ・1995年(平7) 桃山学院大学社会学部卒業
- ・1995年(平7) 高宮町役場に勤務
- ・2001年(平13) 川根郵便局長に就任
- ・2018年(平30) 吉田郵便局長に就任
- ・2023年(令5) 吉田郵便局長を退職する

〈主な経歴〉

- ・吉田郵便局長 ・芸北地区郵便局長会副会長
- ・川根振興会事務局長 ・安芸高田市PTA連合会副会長
- ・人権擁護委員 ・農事組合法人かわね理事

好きな言葉:「一期一会」
ファミリー:母、妻、1女2男、孫2人



藤本えつし後援会

〒731-0501 安芸高田市吉田町吉田601-1
☎ & 📠 0826-48-1222 ✉ fujimoto.etsushi@gmail.com

藤本えつし後援会にご加入ください

FAX からは 0826-48-1222

HPからは fujimoto-etsushi.com



HP

facebook

X(元twitter)

藤本えつしの

決意

まちの「声」に心が突き動かされました

この「声」こそ、まちの希望と力です

「市民を置きざりにして、なにやっとなるん」
「やられたらやり返すみたいで、恥ずかしい」
「今のままじゃ、いけんよーね」

そんな、まちの声に私の心は突き動かされました。
私たち市民を置きざりにした市政の混乱は、誰
のための市政なのか、市民には見えてきません。

いま、市民の暮らしは、コロナ禍で痛手を負い、
さらに物価高に直撃され、何とか耐えながら「い
ま、ここ」での暮らしをしています。そして、全
国どの市町村も人口減や財政難など行政課題は山
積みです。市政が混乱している暇はありません。

山積みの行政課題を解決していくには、馴れあ
いや独善を捨て、寛容さと敬意で意見の違いを「ま
とめる」政治力が必要です。そして市民と共に課題
に取り組みなければ解決できません。

政治は「情」と「理」で行われるものです。「理」だ
けで心のない政治では「誰のため」の政治なのかを
見失うからです。とりわけ市政は、常に市民の暮らしに
心をおく政治でなければいけません。

私がつくりたいまちは、誰も置きざりにしない
「あったかいまち」です。子育てから介護まで、市民
の「困った」や「しんどい」をくみとり、きめ細かい
制度と仕組みによって住民と行政が「だいじょう
ぶ」でつながったまちです。

まちの声は、ギスギスした市政を
「なんとかしてほしい」という願いの
声でした。この声こそ、まちの希望と
力です。希望の声を束ね、私たち一人
ひとりのふるさとを守ります。



fujimoto-etsushi.com



5つの安芸高田 あったか ビジョン



私たち一人ひとりの 「ふるさと」を守ります。



藤本ビジョン 1 ギスギスしない改革

不安をおおるギスギスした行財政改革のやり方ではまちがダメになります。じっくり対話し、違う意見もくみとる寛容さで改革を実行します。

- 私たち市民にとって最も身近な「行政」が市役所です。その役割は、暮らしの「いま、ここ」にある生の声をくみとり、暮らしを支える政策を実行することです。「今までこうだった」の慣例主義をやめ、改革を実行します。
- 地域にある公共施設には住民の「思い」がこもっています。公共施設を統廃合する改革は、地域の思いをくみとり、じっくり対話し実行します。
- 混乱した市政では市役所も疲弊してしまいます。トップリーダーの仕事はすべての結果責任をとり、市役所スタッフがのびのび働きやすくすることです。ギスギスではなく、まちに笑顔と元気を発信する市役所にします。

藤本ビジョン 2 暮らしやすい「あったかいまち」づくり

住み慣れた「ここ」での暮らしを、「おたがいさま」でつながり、誰も置きざりにしない「ふるさと」をつくります。

- まちづくりの主人公は住民です。それを裏方の行政がしっかり支えます。住民自治の力と行政力をあわせ、誰も置きざりにしないまちをつくります。
- 各町の支所は暮らしやすさを支えるソフト面に集中し、子育てから介護まで、行政が現場へ出向き「困りごと」を地域と一緒に解決します。
- 移動や買物に不便な地域の暮らしを支えるため、事業者の移動販売の支援やライドシェア(相乗り方式)の可能性を探るなど支援策を行います。
- 災害に想定外は通用しません。国や県と連携した危険箇所の改修や、自主防災体制の強化で、災害にも強いまちを作り、かけがえのない命と財産を守ります。
- さまざまな違いや多様性を認めあう暮らしやすいまちにします。
- 神楽や田楽、はやし田などの誇りある文化を発信し賑わいを創出します。
- 「サンフレッチェ広島と安芸高田ワクナガハンドボールクラブのまち」の魅力を活かした「スポーツのまちづくり」を推進し、子どもたちの夢を育み、まちに賑わいをつくります。



藤本ビジョン 3 すくすく子育てとまなび

子どもは社会の宝です。社会の宝を社会で育てるための制度と仕組みをつくり「子育て」と「まなび」を幅広く支援します。

- 子どもたちの「やりたい」と「子育て」を応援するため、全国の先進的なモデルも取り入れてきめ細かく支援します。
- すべての子どもたちの「まなび」を保障するため、不登校の子どもたちが出席となるフリースクール、身近で学べる放課後学習やスポーツクラブの支援を行います。
- インクルーシブ教育で障がいのある子どもたちの「まなび」を保障します。
- 子ども食堂など地域のさまざまな子育て応援を行政的に支援します。

藤本ビジョン 4 ぬくもりのふくしとシニアの底力

誰もが住み慣れた「ここ」での暮らしを続けられるまちにします。敬意のある福祉で、すべての人が暮らしやすい安心のまちをつくります。

- 障がいのあることで暮らしにくい社会は、すべての人が住みづらい社会です。あるがままで暮らせる、人にやさしいまちをつくります。
- 「メディカルネットワーク」をつくり地域医療の充実と、「産科」がない現状を改善して、安心して出産できる「ぬくもり」のまちづくりをめざします。
- 多才な技能のシニアの底力を、地域活性化の推進力にし次世代に繋げます。
- 元気なシニアを応援する介護予防を充実し、認知症や介護の支援を行います。もしもの時に役立つ「シニア手帳」を発行し救急医療などに備えます。

藤本ビジョン 5 がんばる産業はまちの原動力

商工業や農林業はこのまちの原動力です。広島市に隣接した強みを活かして企業誘致を促進し、商工業や農林業を支援して元気なまちにします。

- がんばる商工業や農林業を応援する支援制度を充実します。
- 女性や若者、元気なシニアの起業を支援します。
- 持続可能な営農のために、自己負担のない農地の再整備を行い、稼げる農業で担い手を育成します。産直事業を支援し多様な担い手を育てます。
- それぞれの地域を「まるごと観光資源」として活かし、ありのままの農業体験型観光などエコ・グリーンツーリズムを推進します。